



TITLE:

「ガングリオン」(臨床講義)

AUTHOR(S):

磯部, 吉右衛門; 巽, 馨

CITATION:

磯部, 吉右衛門...[et al]. 「ガングリオン」(臨床講義). 日本外科宝函
1928, 5(2): 467-470

ISSUE DATE:

1928-03-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200115>

RIGHT:

「ガン グリ オン」

(臨床講義)

昭和三年二月二日

敎授 醫學博士 磯部 喜右衛門 述
助手 醫學士 巽 馨 記

患者。西村某、四十三歳、男、吳服商。

遺傳的關係。特ニ述ベル程ノモノハナイ。

既往症。生來健康デアツテ著患ヲ知ラナイ。花柳病ヲ病ンダコトモナイ。酒ハ一日ニ一合位、煙草ハ一ヶ月ニ四十支位ヲ常用スルト。

現在症。昨年十月頃カラ、長時間坐ツテキルト、特ニ左ノ下肢ダケガ痺レテ來ルコトニ氣ガ付イタノデ、左脚ヲ觸ツテ見タ所ガ偶然左膝裏ニ無痛性ノ腫物ノ在ルヲ見付ケタ。腫物ハ其後一向増大スル様子モナク、今日ニ及ンデキル。

現在所見。體格ハ中等大、骨格モ強壯デアツテ、營養モ良シイ。皮膚及ビ可視粘膜ニモ異狀ハナイ、脈搏ハ正調デ、數ハ一分時七十五、大サ及緊張度ハ普通デアアル。頭部顔面ニ異狀ナク、胸部臟器ハ凡テ正常ノ狀態ニアル。腹部ニモ何ヲ異狀ヲ認メナイ。次ニ主訴ニヨツテ下肢ヲ診マセウ。所デ此樣ニ對ヲナシテ居ル個所ヲ診察スル時ニハ、必ジ兩方ヲ對照シテ診ナケレバナラナイ、ト云フノハ個人ニヨツテ夫々多少形態ニ差異ノアルモノデアルカラ、一方ダケヲ檢査シタノデハ往々飛ンダ間違ヒラスルコトガアル。ソレデ左右ノ下肢ヲ對照シテ檢ベテミルト、仰臥位デハ兩方共ニ何等變ツタ所ハナイ。腹位ニシテ診ルト、左ノ膝關節部ガ右ニ比ベテ著明ニ膨隆シテ居ツテ、其處ニ大キナ鶏卵大位ノ腫脹ヲ認メル。此部分ノ皮膚ハ緊張シテキルガ、特別ニ變色モシテ居ラズ、又靜脈ノ怒張ヤ、搏動ハ認メナイ。更ニ膝關節ノ自動並ニ他動運動ヲ檢シテ見テモ少シモ障害セラレテキナイ。

觸ツテ診ルト、丁度膝關節ノ中央ニ一ツノ鶏卵大ノ腫物ヲ觸レル。其形ハ殆ンド球狀デ、境界ハ非常ニハツキシテキ

ル。硬度ハ凡テノ部分ガ同様ニ緊張弾力性デアツテ、何ノ方向ニモ明カニ波動ヲ證明スルコトガ出來ル。此レヲ壓シテモ縮少シナイ。

腫物ハ皮膚トハ能ク移動スルガ、基底トハ左右ノ方向ニ少シ轉動スルダケデ上下ノ方向ニハ動カナイ、即チ皮膚トハ癒着ハ無イガ基底トハ一部分固着シテキルラシイ。大體右ノ通りノ所見デアルガ然ラバ此ノ腫物ハ一體何デアロウカ、新生腫瘍デアロウカ、夫共炎症性ノモノデアロウカ。

先ヅ新生腫瘍トスルニハ、腫物ノ形ガ夫ニ一致シナイ、尤モ腫瘍ガ極急速ニ成長スル時ニハ一時丁度此様ニ球狀ヲ示スコトモアルガ、普通ハ周圍ノ抵抗ノ弱イ部分ヘ向ツテヨリ盛ニ成長スルモノデアルカラ、其ノ形ハ不規則トナツテ正シイ球狀デアルコトハ先ヅ無イ、之ニ反シテ一ツノ囊ノ中ヘ液體バカリガ集ツテ内壓ガ平等ニ増シテ來タ時ニハ内腔ノ經濟上此様ナ正球形ヲ保ツテ居ルコトガ最モ都合ノヨイ、狀態トナルモノデアアル。又細胞ノ多イ肉腫ガ時ニハ斯ノ様ナ硬度ヲ示シ假性波動ヲ呈スルコトモアルガ、長時日ノ間大サニ變化ノナカツタコトヤ、前述ノ諸所見等カラ考ヘテ、此ノ腫物ハ其様ナ惡性ノ腫瘍デアアリ得ナイ。更ニ又搏動ヤ、壓縮性ガナイカラ動脈瘤ヤ血管腫ノ様ナモノデモナイ。

次ニ炎症性ノモノトスレバ、急性炎症デナイコトハ明カデアツテ、慢性炎症性ノモノデナケレバナラヌ。慢性炎症デ此ノ場合ニ考ヘラレルモノハ結核症ト微毒症デアアル。結核症デハ流注性膿瘍ヲ考ヘネバナラヌガ、此レハ組織ノ間隙ニ流注スルモノデ強イテ緊滿スベキ必要ハナイ、只周圍ヘ擴ガル餘地ノナイ場合ニノミ緊滿シテ來ルモノデアアル。然ルニ此患者ノ腫物ハ周圍ニ鬆粗ナ餘地ガ充分在ルニモ係ラズ、此部分ダケニ限局サレテ、球狀ニ圓ク緊滿シテ居ルノデアアル。尙流注性膿瘍トスレバ場所柄骨又ハ關節ニ結核性病竈ガ在ツテ夫、ガ破レテ膿ガ流出シテ來タモノト考ヘルノガ至當デアアルガ、本患者ハ骨ニモ關節ニモ何等異狀ヲ認メナイ。ソレデ此腫物ハ流注性膿瘍デハナイ様デアアル。

次ニ微毒症デハ、護謨腫ヲ考ヘネバナラヌガ、護謨腫ハ上腿下部ノ筋膜ナドニモ能ク來ルコトガアツテ、此ガ内部デ軟化シタ場合ニハ、一見此ノ腫物ニ似通ツタ囊腫様ノ性狀ヲ呈スルコトモアルガ、護謨腫ハ普通基底ガ廣クテ、低ク平ナ隆

起ヲ形成スルモノデアツテ、此ノ腫物ノ様ニ丸ク凸隆シテ居ルモノデハナイ。尙内部ガ軟化シタトシテモ、一時ニ全部ガ軟化スルモノデナイカラ、何處カニ硬イ部分ガ殘ツテ居ルモノデアル。譬ヒ全部軟化スルトシテモ、其軟化部ノ周圍ハ必然的ニ起ル反應性炎症ノタメニ細胞ノ浸潤ガアルカラ、必ズ硬ク觸レルモノデアル。所ガ本患者ノ場合ハ何處ニモ特別ニ硬イ抵抗ヲ證明シナイ。ソレデ此ノ腫物ハ護膜腫デモナイ様デアル。斯ク考ヘテ來ルト此腫物ハドウシテモ内容ニ液體ヲ充滿シタ囊、即囊腫デナケレバナラナイ、且ツ又極メテ慢性デ良性ノモノデアラネバナラス。

サテ囊腫トシテ、此際鑑別ヲ要スル類症ニハ「ヒグローム」(Higrom)ト「ガングリオン」(Ganglion)ガアル。「ヒグローム」ハ元來炎症性ノモノデアツテ粘液囊、若クハ腱鞘ニ生ズルコトガ最も普通デアツテ、滲出性慢性粘液囊炎或ハ同腱鞘炎ト理解スベキモノデアル。此ノモノモ内容ハ、液體ガ充滿シ、凡テノ方向ヘ内壓ガ加ハルタメニ、斯カル囊ノ元來ノ性質トシテ其形ハ概シテ正球狀ヲ呈スルモノデアル。然シ「ヒグローム」ノ内容液ハ、普通漿液纖維性デアルカラ、液中ニハ多少ノ纖維素ガ含マレテ居ツテ、此ノ纖維素ガ囊内壁ニ沈着スルタメニ、囊壁ハ可成厚クテ硬イ、ノミナラズ斯ル内壁上沈着物ハ遂ニ絨毛ヲ形成シ或ハ更ニ、此レガ離落シテ囊内ニ浮游シテ居ルコトガ多イ、此レガ所謂米粒體 (Reiskornkörperchen, Corpora oryzoides) ト稱スルモノデアル。斯様ナモノ、存在スルタメニ「ヒグローム」ハ觸診ニ際シテ往々捻髪音等ヲ聞クコトガアル。

然ルニ本腫物ニ於テハ捻髪音ヲ聞カズ、又殊ニ壁ハ甚ダ薄イモノラシクテ、何等特別ノ抵抗ガ無イ。故ニ本腫物ハ「ヒグローム」デハナクテ、「ガングリオン」又ハ一名培生骨瘤 (Osteoma) ト稱スル疾患デアルト診斷スベキデアル。

扱テ「ガングリオン」ハ最も普通ニハ腕關節ノ背側ニ來ルコトガ多イガ、比較的稀ニ膝關節部或ハ足關節部等ニモ來ルモノデアツテ、其大サハ一般ニ雀卵大位デアルガ、稀ニ膝關節部等ニ來タモノデハ可成大キイモノヲ見ルコトモアルガ、然シ夫レモ或程度マデアツテ、新生腫瘍ノ如ク如何程迄デモ大キクナルトイフ性質ノモノデハナイ。即チ鶏卵大乃至鵝卵大ヲ越ユルコトハ稀ナモノデアル。數ハ稀ニ二ツ以上ノコトモアルガ通常ハ一個デアル。内容ハ丁度透明ナ寒天様ノ粘稠

デ濃厚ナ液體デアツテ、色ハ淡黃若クハ淡黃褐色ノモノデアル。皮膜ハ薄イ結締織デ出來テキル。

「ガングリオン」ハ元來炎症性ノモノデハナクテ、關節腱鞘附近ノ結締織中ニ起ツタ膠樣變性ニヨツテ生ズルモノデアツテ、其本態ニ就イテハ色々説ガアルガ、言ハバ一種ノ變性囊腫トモ理解スベキモノデアル。

此レハ通常其内容ガ強度ニ緊滿シテ居ツテ、恰モ骨ノ様ナ硬度ヲ示スモノデアル、是レ培生骨瘤 (Osteoma) ノ稱アル所以デアル。

症候トシテハ、一般ニハ只腫物ガ在ルトイフコトノ外ニ、取り立テ、言フ程ノ自覺症狀ハ殆ンド無イモノデアル。但シ腫物ノ大サヤ、殊ニ場所ニヨツテハ、關節ノ運動ヲ多少障害スルコトモアリ、又腫物ニ隣接シテ神經索ガ走ツテ居ル様ナ場合ニハ、此レヲ壓スル爲ニ時々一過性ノ疼痛ヲ覺エルコトガアリ得ル。然シコノ際ノ疼痛ハ神經ヲ外カラ壓スルコトニヨツテ生ズルダケノモノデアツテ、惡性腫瘍ノ際ニ見ルガ如キ神經内ヘ腫瘍細胞ノ浸潤スルコトニヨツテ生ジタ時ノ疼痛ト異ツテ、大シタモノデハナイ。

治療トシテハ、古來種々ノ方法ガ行ハレテキル。例ヘバ穿刺シテ内容ヲ出ス法トカ、又ハ内容ヲ出シタ後ヘ「フィブロリジン」、「カルボール」液、沃度劑、或ハ「マグネシン」等ノ注射ヲスル法トカ、又ハ皮膚ノ上カラ木槌ヲ以テ之ヲ打潰シテ皮膜ヲ破リ、内容ヲ周圍ニ流出セシメテ吸收サセル法等色々アルガ、何レニシテモ皮膜ガ殘留シテ居ル場合ハ再發シテ來ルコトガ多イ。故ニ手術的ニ剔出スルコトガ最モ良イ治療法デアル。但シ茲ニ注意スベキコトハ、「ガングリオン」ハ其基底ガ往々關節腔ト交通シテ居ルコトガアルカラ、手術ハ充分ニ無菌的ニ行ハレナケレバナラナイノデアツテ、若シ手術創ガ感染シタ場合ニハ、容易ニ關節炎ヲ起シテ悲慘ナ結果ヲ招來スルトイフコトデアル。